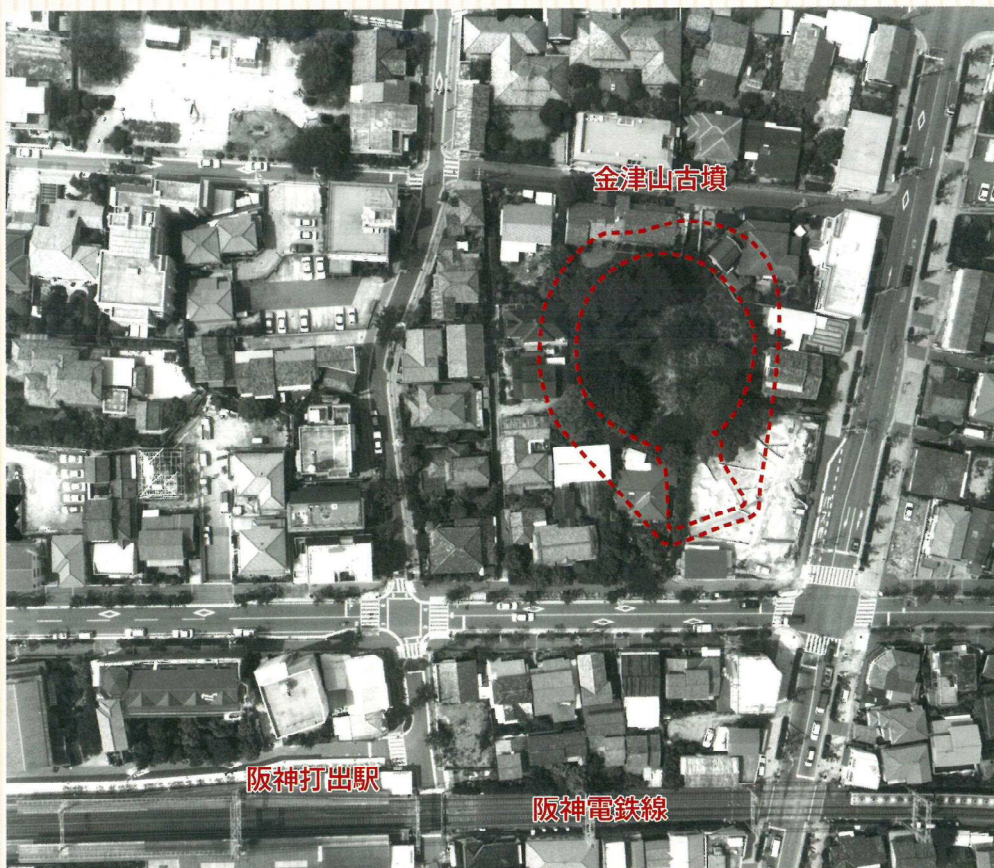


兵庫県指定文化財

かな つ や ま こ ふ ん 金津山古墳

KANATSUYAMA BURIAL TOMB



金津山古墳を上空より望む（平成2年撮影）

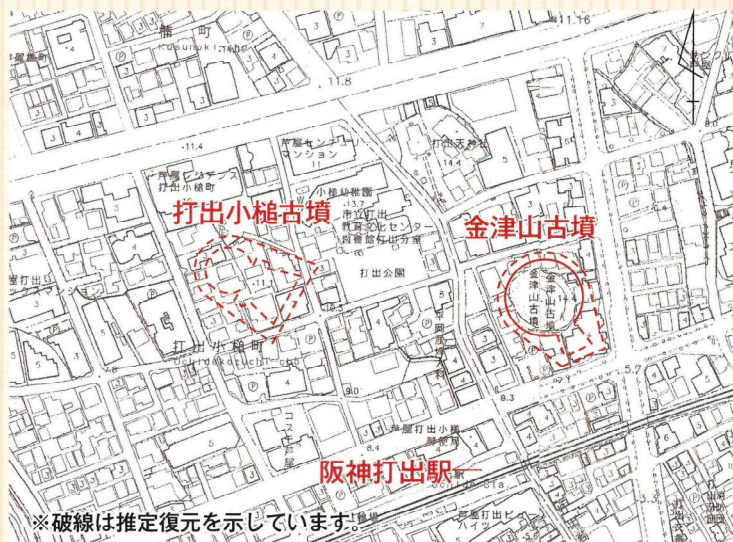
1

かな つ や ま こ ふ ん 金津山古墳が造られた時代

かな つ や ま こ ふ ん かすがちょう
金津山古墳（春日町）が造られたのは、約1500年前の古墳時代です。当時、今の奈良県を中心に強大な権力をもった「ヤマト政権」と呼ばれる政治集団がありました。このヤマト政権のシンボル的なお墓の形が“前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}*1”であり、全国で5000基以上みついています。前方後円墳は、ヤマト政権の許可なく造ることができなかったため、金津山古墳に眠っている人物は、ヤマト政権とつながりの強い豪族^{こうぞく}だったと考えられています。

古墳って
なんですか？

おおきみ こうぞく
古墳時代の大王や豪族
のお墓のことだよ



金津山古墳は、阪神打出駅から北東方向へ約 100m の場所にあり、現存する後円部が見学できます。
なお、打出小槌古墳は、残っていません。



ふきいし はにわ
葺石や埴輪が出土しています

2

兵庫県指定文化財 かなつやまこふん
金津山古墳



- 所在地：^{あしやしかすがちよう} 芦屋市春日町
- 築造時期：古墳時代中期後半（5世紀後半）
- 大きさ：墳長約 55m、後円部径約 42m
- 指定年月日：令和 5 年（2023）3 月 2 日

前方部が通常の前方後円墳より短い、帆立貝のような形をしています。古墳の斜面には、^{ふきいし} 葺石*2 が貼り付けてあったことがわかっています。

前方部は鎌倉時代（約 700 年前）に削られ、現在は高さ約 4.4m の後円部しか残っていません。後円部には、^{ひつぎ} 棺が納められています。



あら、近くにこんな古墳もあったの!?



3

うちでこづちこふん
打出小槌古墳

- 所在地：^{あしやしうちでこづちちよう} 芦屋市打出小槌町
- 築造時期：古墳時代中期末（5世紀末）
- 大きさ：墳長約 58m、後円部径約 28m

室町時代頃（約 500 年前）に^{ふんきゅう} 墳丘が削られ、現在は住宅地になっています。しかし、発掘調査によって、^{しゅうこう} 周濠がみつかりました。



はにわ
打出小槌古墳からも埴輪がたくさんみつかりました

4 ハニワたちが語るもの

埴輪^{はにわ}は、粘土で作られた焼き物で、さまざまな形のものがあります。その中で多いのが円筒埴輪^{えんとう}で、金津山古墳や打出小槌古墳からたくさん出土しています。円筒埴輪は、古墳の墳丘上に囲いのように立て並べられていました。

円筒埴輪たち



★ちょっと珍しい埴輪たち★

円筒埴輪以外にも、人物や動物、家、盾などをかたどった形象埴輪^{けいしょうはにわ}があります。

金津山古墳からは、鶏形埴輪^{にわとり}の頭部分や人物埴輪などが出土しています。打出小槌古墳からは、顔に入れ墨^{いすみ}を施し（黥面^{げいめん}），“ふんどし”をしめた人物埴輪などが出土しています。

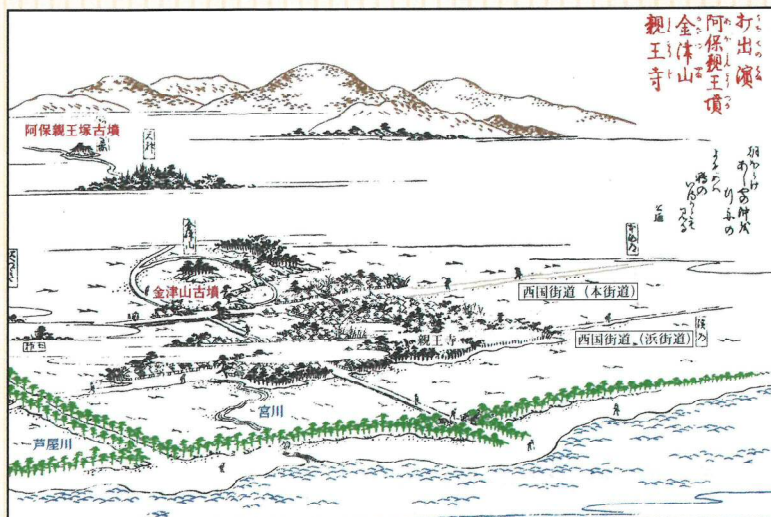
こけこっこー

出身地：金津山古墳
お名前：鶏形埴輪
動物の種類：ニワトリ
コメント：なぜ、ニワトリってわかるかって？トサカがついていたあとが残っているんです。



僕の職業は
何だったの
しょうか？

出身地：打出小槌古墳
お名前：人物埴輪
職業：海の男「海人」^{あま}
とも力士^{りきし}とも考えられています。手に持っているものがポイントになりそう。なにかしら？



江戸時代の地誌『摂津名所図会』に描かれた金津山古墳（寛政8〔1796〕年刊行、〔臨川書店 1996〕に加筆・改変。）

江戸時代には 観光スポットだった!!

左の絵は、江戸時代に出版された『摂津名所図会』^{せつづめいしよずえ}（当時の旅行ガイドブック）の一場面^{かいわい}で、打出小槌^{なでうづ}の古墳^{こふん}の名所として、金津山古墳や、北側にある阿保親王塚古墳^{あほしんのうづか}（翠ヶ丘^{みどりがおか}町）などが描かれています。

金津山の黄金伝説

金津山古墳は、別名「黄金塚」（こがねづか）「金塚」（かなづか）とも呼ばれていました。そして、これらの名称の由来となった、次のような伝説があります。

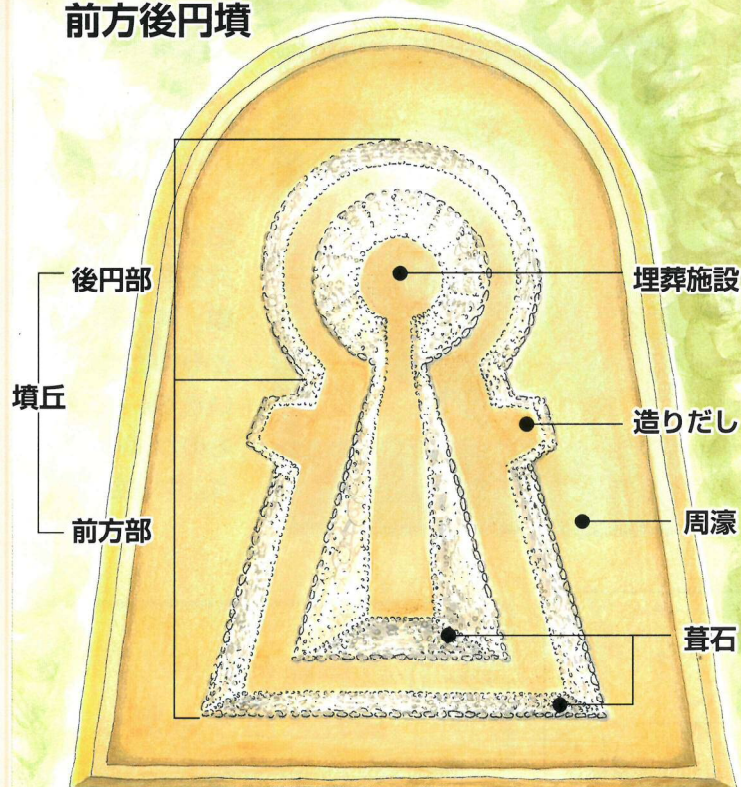
平安時代（約一二〇〇年前）、阿保親王（平城天皇の皇子で、歌人・在原業平の父親）の別荘が打出にありました。阿保親王は村人たちを愛し、この村に飢饉（きん）が起こったときのために備えて、金瓦一万、黄金一千枚を埋めたと伝えられています。

また、江戸時代には打出の村人が、「朝日さす入日かがやくこの下に、金千枚、瓦万枚」と歌っていたそうです。

このような伝説から、黄金が埋まっている古墳ということで、「金津山」「黄金塚」などと呼ばれるようになりました。



前方後円墳



用語解説

* 1)

ぜんぽうこうえんふん

前方後円墳—左の図のような形をした古墳です。主に後円部に遺体を埋葬します。兵庫県下では、約300基みついています。

つく

造りだし—一部の前方後円墳にある、マツリ（祭祀）を行ったと考えられる場所です。打出小槌古墳にもあったと考えられています。

しゅうこう

周濠—墳丘を囲む堀のことです。

* 2)

ふきいし

葺石—墳丘斜面などを覆う石のことです。古墳を美しくみせるためと、土が流出するのを防ぐ役割をしていました。

編集
発行

芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課

〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7-6 電話 0797-38-2115 FAX 0797-38-2072

平成29年(2017)3月31日発行